

患者が変われば 医療が変わる 医療が変われば 地域が変わる



島根益田がんケアサロン 代表
C・T・V創生研究所 所長 納賀 良一

1937年5月、石川県金沢市生まれ。同志社大学文学部卒。特殊精密機器メーカーの(株)フジキン総務部部長兼改革推進室リーダーを経て、1994年3月、1ターンで益田市移住。益田ドライビングスクール合宿型システム作りを依頼される(カイアの夜明けで放映)。その後、C・T・V創生研究所設立。地域で観光、定住、教育、医療など街おこしを実施。2005年12月、全国初のがんサロン開設。

第37回 「えにしの会」から学ぶこと

毎年参加している「えにしの会」。国際医療福祉大学大学院教授の大熊由紀子氏が主催されている。今年も体調不良ながら全国各地から集まった。400名ほどが

精神医療、医療安全テーマに議論

がん患者は私ただ一人。福祉と医療・現場と政策を結ぶ会なのでいろんなジャンルの方々が参加して来る。テーマに関する当事者、現場スタッフ、行政マン、ジャーナリスト、研究者など。今年には全体的に女性群が多い感じ。参加メンバーも入れ替わって若くなってきている感じ。

この集いにはいくつかのルールがある。

①席はくじ引きで決まる。近くにだれが来るかはわからない。それが楽しい。著名人が来ることもあるからだ。

②前例を破ることから、〇〇先生、〇〇局長ではなく、さん・ちゃんづけで呼ぶことになった。

がん患者は私ただ一人。福祉と医療・現場と政策を結ぶ会なのでいろんなジャンルの方々が参加して来る。テーマに関する当事者、現場スタッフ、行政マン、ジャーナリスト、研究者など。今年には全体的に女性群が多い感じ。参加メンバーも入れ替わって若くなってきている感じ。

この集いにはいくつかのルールがある。

①席はくじ引きで決まる。近くにだれが来るかはわからない。それが楽しい。著名人が来ることもあるからだ。

②前例を破ることから、〇〇先生、〇〇局長ではなく、さん・ちゃんづけで呼ぶことになった。

今年「えにしの会」のテーマは、「精神医療革命3つの嵐」、「医療安全3つの嵐」、「質の文化に挑戦する人々」、「やまゆり園事件、有料老人ホーム殺人事件から考える」の3テーマだったが、私は時間の都合で2テーマのみの参加となっていました。

精神医療革命3つの嵐では、「へてるの家」(北海道浦河町)の関係者を中心に沢山の学びを得られた。一度是非、訪問したい場所だ。わたしの周りにも精神障害者がいる。今回の勉強から精神障害者が抱える問題を考えるとき、多様な視点と心温まる気持ちが必要と改めて考えさせられた。

また医療安全については医療側からの視点が目立った。私自身、以前から医療側に患者、家族の目も入れてほしいと申し入れていた。例えばひやりハット事例があるが、医療者以外、誰も見ることはできない。

この事例を公開したらどうだろう。事故一歩手前の事例だから尚更効果は大きいだろう。たかさんの目で見た方が事故は必ず減る。患者の目、患者家族の目、視点が増えれば事故はどれほど減るだろうか計り知れない。そのような時はいつ訪れるだろうか。